令和3年度　　学校評価　自己評価書（一覧）

評価基準　A―80％以上（良い）　B―60～80％未満（まあまあ良い）　C―40～60％未満（あまり良くない）　D－40％未満（良くない）

園学校名　安田小学校

経営理念	＜目指す学校の姿＞ 児童・地域・保護者から、信頼される学校を目指し、安全で安心して登校し、任せられる学校づくりを行う。お互いが切磋琢磨しながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身につけ、新しい未来と時代を切り拓く児童を育てる。夢や志をもち、その実現のため、学びあい、支えあい、共に伸びる児童集団、教職員集団を目指す。 ・一人ひとりの児童が個性を発揮し主体的に活動できる学校　・一人ひとりの教師が専門性を発揮し、組織として機能する学校　・保護者・地域との信頼関係を深め、ともに歩む学校 ＜目指す児童の姿＞ ・明朗活発で健康な児童　・優しさと思いやりのある児童　・感謝の気持ちを忘れない児童　・物を大切に、人を大切にできる児童　・思考力、判断力、表現力のある児童　・自己の目標に向かって努力できる児童 ・自ら考え、主体的に学習生活に取り組む児童　・勤労を尊び、社会に奉仕する児童 ＜目指す教師の姿＞ ・児童を大切にできる教員（深い愛情）・児童の力を引き出せる教員（可能性を見抜く力・高い観察力・対応力）・教育に対する熱意と使命感をもった教員（責任感・誇り） ・自己研鑽に努め、指導力の向上を目指す教員（高い指導力・知識力）・豊かな人間性と思いやりをもった教員（温かい心・コミュニケーション力） ・振り返りができる教員（検証する力）・早い対応ができる教員（指導や支援が後手にならない対応力）・生徒指導の3機能を生かした授業づくりできる教員（自己決定・自己存在感・共感的人間関係） ・組織人としての責任感をもった教員（学校運営への参画・若年教員の育成）・家庭や地域社会との連携に努め、相互の信頼関係を高めようとする教員（連携・信頼）

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	○学力の定着と向上及び課題解決の育成	○全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査、総合学力調査で全国平均・県平均を上回る。 ○学習スタンダードの質的向上を図る。 ○ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりを進める。 ○講師招聘による研究授業・校内研修を実施する。 ○研究授業を実施するにあたり、指導案検討や模擬授業を行い、授業改善を図る。 ○地域教材や人材を活用した学習や体験を通して学びを深める。	○各種学力調査結果は、ほぼ全国・県正答率を上回っている。 ○無解答はほぼないが、記述問題での正答率が低くなっている。 ○ゴールイメージをもって授業展開することを大切にした。 ○1学期は地域の人材を活用した授業や活動は、実施できなかた。2 学期以降に内容を見直し実施できた。 ○コロナ禍のため内容や実施時期を変更したものがあったが、ほぼ講師招聘の校内研修は実施できた。 ○指導案検討や模擬授業が実施でき成果に繋がった。	B	○学力の2極化が顕著であり、国語で正答率が低くなっている。配慮の必要な児童についての支援方法の研究を引き続き取り組む。 ○校内の研究組織体制の見直しや質の高い研修の実施を行う必要がある。 ○分析結果を有効に活用し、課題克服のために計画的に取り組んでく。 ○指導案検討や模擬授業は実施できたが、研究の連続性が確保できていないので、研究の繋がりを創出していく。	各種調査の結果や研修をもとに、授業改善につなげるための振り返りを行いながら取り組めていると思う。今後も継続して取組を進めてほしい。 アクティブラーニングを数年前から取組んでいると思うが、子どもの主体的な学びを更に発展させる取り組みがほしい。	B
	○家庭学習の定着	○家庭学習の向上を図る。 （提出率 93%以上・学習時間達成率 83%以上） ○個に応じた家庭学習を提示する。 ○内容の質的向上を図る。 ○家庭学習の手引きを有効に活用する。 ○自主学習ノートの充実を図る。	○家庭学習提出率：92% ○学習時間達成率：78% ○自主学習ノートコンテストは予定通り実施できた。 ○家庭学習の手引きは配布したが十分な活用ができなかった。	B	○家庭学習の充実のため、学習時間の質的向上を図る。 ○授業と連動した自主学習の取り組みを進める。 ○自主学習ノートづくり等の見直しをする。 ○中学生の自主学習ノートを紹介し意欲を高める。	家庭学習の目標には届いてはいないが概ね達成できている。 自主学習ノートコンテストは、学習意欲を高めるために良い取り組みだと思う。 自主的に学習する力をつけるよう、家庭学習の手引きの見直しも必要。	B
徳	○道徳教育の充実	○豊かな心を育む教育の充実を図る。（自尊感情・規範意識の肯定的評価 87%以上） ○講師招聘による研究授業・校内研修を実施する。 ○家庭への働き掛けを進める。（高知の道徳の活用） ○各種アンケート調査を実施・分析し、面接を実施する。また、個別指導に活用する。	○自尊感情の肯定的評価　83.0% ○「家庭で取り組む高知の道徳」の活用　42.0% ○「家庭で取り組む高知の道徳」の活用した授業の板書や児童の振り返りを道徳掲示板に掲示した。 ○道徳授業チェックシート【教師用】10 項目均 3.3	B	○ほめほめ週間を実施し、意識の高揚に繋がった。「家庭で取り組む高知の道徳」も併せて活用していく。 ○夏休みに「家庭で取り組む高知の道徳」を親子で取り組み、その内容を2学期の授業で関連付けて行く。 ○公開授業を計画的に実施していく。	「家庭で取り組む高知の道徳」は、最初に興味をもてるような見やすさ、工夫があればもっとよいと思う。活用率を上げていくための取組を今後も検討してほしい。（読書の時間の活用や本読みの宿題など）	B
	○生徒指導の充実	○生徒指導の 3 機能を大切にした授業づくりを行う。 ○講師招聘を行い、指導・支援についての研修を行う。 ○SC、SSWを交えての校内支援会を継続的に実施する。 ○園小中の連携を図り、児童の支援にあたる。	○「学校満足度」満足群 55%で半数以上となった。 ○校内支援会は計画通り実施できた。 ○講師招聘研修はほぼ計画通り実施できたが、コロナウイルス感染防止のため講師を招いて実施できない時期があった。	B	○講師招聘研修やサポート事業等を活用し、児童理解、特別支援教育の研究を進める。 ○Q-U 学級支援シートを作成、支援について共通理解を図った。次年度も分析結果を日々の指導に活用していく。 ○園と連携し児童の支援にあたり、情報共有の機会を持つ。	取組を継続し、関係機関と連携を図っていってほしい。	B

	○読書活動の充実	○委員会活動と連動し、読書への興味、関心を高める。 ○読書週間を設定し、目標時間を明示して取り組む。 ○読書の習慣化に繋がるよう、家庭への働き掛けを行う。	○「本を読むのが好き」 41% ○家庭における習慣読書時間（のべ60分）を達成できたのは61.9% ○辞書引き大会。百人一首大会を予定通り実施した。 ○図書委員会児童によるおすすめの本紹介、教員によるシャッフル読み聞かせを実施した。	A	○本の紹介を行い、いろんなジャンルの本に親しませることができた。委員会活動を活発に行っていく。 ○読書感想文・読書感想画コンクールに参加することを通し、好きな本や作者を意識させることができた。次年度も検討する。 ○興味関心を高める取り組みを工夫する。	読書の習慣化のために工夫をして取り組んでいる。蔵書を充実させ、授業での活用や児童による活動などに一層取り組み、本を読むことが好きな児童の割合を増やすことを目標にしてほしい。	A
体	○体力向上	○持久力・敏捷性の向上を図る。（県平均を上回る。） ○朝の体操、体育朝礼、体力アップ集会を計画的に実施する。 ○外部講師を招き、教師の指導技術向上とともに、体力の向上を目指す。	○1学年が実施し、持久力が向上した児童の割合 58% ○1学年が実施し、敏捷性が向上した児童の割合 33% ○朝の運動や体力アップ集会は計画的に実施できた。 ○外部講師を招いて水泳指導を行った。 ○持久走大会、カードマラソンは、練習方法や実施内容を再検討し実施でき、児童の意欲に繋がった。	B	○持久力や敏捷力の向上については、来年度も1学年が代表して行う。 ○朝の体操、体力アップを計画的に実施する。 ○外部講師を招いて水泳指導を行う。 ○委員会活動を積極的に行い、意識の向上に繋がった。次年度も活動の場を増やしていく。	縦のつながりを大切にしながら取組を工夫して体力向上に努めている。継続して取組をすすめてほしい。	A
	○運動の習慣化	○体を動かすことの楽しさに気付き、運動習慣に繋がる授業づくりを進める。 ○家庭でも取り組めるよう情報発信を行う。	○体育アンケートを 1 回実施した。 ○毎日1時間以上の運動をしている児童の割合 49%	B	○アンケートを複数回実施する。 ○アンケートの結果を有効に活用し、授業改善に繋げていく。 ○計画的に情報発信をしていく。	休み時間に上級生と下級生が楽しく遊んでいる姿がとてもよいと思う。運動習慣につながるよう、授業づくりにも取り組んでほしい。	B
	○健康教育の推進	○各種アンケート調査を実施・分析し、面接を実施する。 ○生活改善啓発のため通信・学級懇談を通して保護者・児童に定期的に働き掛ける。 ○必要に応じ児童、保護者に対して個別指導を実施する。	○各種アンケートは、計画的に実施・分析を行った。結果については、通信で情報発信した。 ○児童や保護者との個別面談（アレルギー・肥満・偏食等）を実施し、現状と課題を共有した。 ○「6 時半までに起きる」55.5%、「早く寝る」56.3%、「朝排便」39.8%であった。	A	○保護者面談を実施し、状況や課題を共有していく。 ○アンケート結果を検証し、以後の支援に生かす。 ○通信等で情報発信していく。	半数以上が目標時間までに起きることができており、生活改善に向けて取り組めている姿勢がわかった。家庭と連携し、保護者が取り組めるような情報発信を継続してください。	A
横断	○不登校への総合的対応	○生徒指導の 3 機能を大切にした、学級経営を推進する。 ○児童理解・支援と対応などの研修を実施する。（年 2 回） ○専門機関との連携を図り、社会的自立に向けて支援の充実を図る。（巡回相談を年 3 回） ○SSW による保護者・家庭への支援を行う。	○欠席数の多い児童・別室登校者が３名いる。 ○「学校生活が楽しい」84%　「いじめをゆるさない」99% ○SC, SSW と連携し、情報の共有化も図れ、保護者との繋がりを持つことができた。 ○校内支援会も計画的に実施できた。	B	○SSW、専門機関と連携し、情報の共有を図る。 ○アンケートや Q-U の結果を分析し、全教職員の共通理解のもと支援するように努める。以降の支援に生かす。 ・校内研修を継続して行い、児童理解や支援の方法についての学習を進めていく。	不登校解消には至っていないが、関係機関と連携しながら取り組んでいる。子どもや家庭との信頼関係を築き、子ども目線、保護者目線で、できる限りの支援を行ってください。	B
	○学校における働き方改革の推進	○業務を見直し意識改革を推進する。 ○校務支援システムの研修を実施する。 ○時間外勤務（月 80 時間未満 100%　45 時間未満 40%）を目指す。 ○定時退校日を月 1 回設定する。	○校務システムを活用した。（職員会・部会等で活用） ○職員会、校時表の見直しを行った。 ○毎月の定時退校日が設定できなかった。	B	○午後7時までの退校を徹底する。 ○校務システム等を活用し、校務や議会の簡素化を図る。	管理職の姿勢が関係してくると思う。教員同士の和を大切にしながら、意識改革の取組みを継続してください。	B
	○防災を中心とした安全教育・安全管理の充実	○学校安全点検を行う。 ○避難訓練・防災授業・防災参観日を実施する。（年5回） ○危機管理マニュアルを見直し活用する。	○校内安全点検は計画的に実施し、整備を随時行った。 ○避難訓練は様々な場面を想定し、複数回実施できた。	A	○毎年危機管理マニュアルの見直しを行う。 ○避難訓練は、内容を見直し継続して行う。	計画的に実施、見直しをしながらよくできていると思う。今後も継続を。	A
	○デジタル技術を活用した「学校の新しい学習スタイル」の構築	○先端技術の活用研修を行う。 ○定期的に実践や活用に向けた研修を行う。 ○プログラミング教育に係る研修を行う。	○情報担当者が講師として研修を実施することができた。 ○学年差はあるが、授業等での効果的活用について前向きに取組でいる。	B	○学年による活用の差があるため、年度当初に活用についての共通理解を図る。 ○学年の目標を明確にし、計画的に活用していく。また、継続した研修を行っていく。	社会のデジタル化により学校教育にも必要な技術であることから、あらゆる教育活動に活用できるようスキルアップに取組んでください。教員により差が出ないよう、学年の目標をもとに計画的な活用を図ってほしい。	B